◆悠久の歴史が語りかけるまち

築地・一ツ木・恩田地区

歴史の小径

❶総合運動公園

❷芋川遺跡

芋川遺跡の位置する一帯は碧海台地の西縁にあたり、遺跡の北側には西流して衣浦湾に注ぐ逢妻川の沖積地を臨むことができる。

この遺跡は、昭和44年・58年・61年の3度にわたり発掘調査が実施されている。縄文時代中期・後期・晩期から、古墳時代前期・後期、奈良時代後期にわたり、竪穴住居跡26軒が発見され、多量の縄文土器、古墳時代の須恵器、土師器などが出土している。

❸松雲院（しょううん）

正平20年（1365）頃、恩田弥平治郎清信というものが足利義詮の攻撃によって戦死し、家臣高木玄信が私宅に薬師如来を安置したのが始まりとされる。恩田の地名もこれに由来すると思われる。その後貞享4年（1687）幡豆郡貝吹村長円寺の月舟和尚は板倉重宗の法名「松雲院殿秀峰源俊大居士」により寺号を松雲院と改め、長円寺の末寺とした。

月舟書群、天明（てんみょう）釜は市指定文化財である。また当寺ゆかりの伝説「恩田の初連」もよく知られている。

❹恩田の初連（はつれん）

刈谷藩主が三浦氏の頃（1712～1746）恩田の松雲院に初連という白狐が住みついていた。初連は人間の及ばぬほど子を可愛がった。当時、松雲院の文福茶釜を気に入った藩主が度々寺へ遊びにきていた。家来たちはする事もなく退屈しのぎに初連親子をいじめたりした。その仕返しに若殿の婚礼を知った初連はにせの花嫁行列を作り、一足先に城へ入り大騒ぎとなった。きつねにだまされた事で藩主は幕府から減封の上国替させられた。和尚がきつく折檻したので初連は恩田を離れ箱根の山奥に逃げ去ったが、その後明治維新後に恩田に帰ってきたと伝えられている。

❺誓願寺

当寺の創立は詳かでない。元文3年（1738）天台宗から真宗に転宗した。

当寺第6世小林信道（大道）門下から幕末の志士佐々木市兵衛を輩出、この信道は碧海と号し詩作を好んだ。また後年刈谷藩校文礼館教授をも勤めた事など境内に建つ「碧海翁碑」に詳しい。

市指定文化財の築地古墳出土の土師器がある。

❻舟塚

昔、応神天皇の4世孫彦主人王がこの地に漂泊し、松に舟をつないで上陸した場所であるといわれている。

宇多天皇の御代（887～897）熊野の住人三善清行が熊野三山の分霊を奉持し、佐久島を経て築地村に来て祀ったのが築地村熊野神社の始めであると伝えられている。その時もこの松の木に舟をつないで上陸したといわれ、「熊野社御神体上陸之地」と記された石柱が建てられている。

❼熊野神社（糟目神社）（かすめ）

応神天皇の4世の孫彦主人王がこの地に来て、伊邪那岐、伊邪那美の命の2神を祀り、糟目天神と号し、この一部を宮地となづけた。

後に59代宇多天皇の時、善相公清行が熊野から分霊を奉持して、熊野三社と称した。当初は糟目天神熊野三社権現といわれたが、明治維新の際、熊野社と改称した。

❽築地貝塚（ついじ）

築地貝塚は、築地川右岸の台地にあり、半島状の碧海台地上に形成された貝塚である。縄文時代後期の貝塚で、竪穴住居跡や縄文土器、石鏃などの石器とともに、人骨や獣骨・貝などが数多く出土された。

❾築地古墳

碧海台地西縁にあたり、標高は7～8ｍである。大正期終わり頃耕地整理が行われ、現存はしていない。

耕地整理作業に従事した人の話では、低い土盛りで、前面が狭く後方が広い造りの石室をもっていたとされるため、横穴式石室を持つ小円墳であったといわれる。

出土遺物として須恵器、土師器、鉄製品がある。

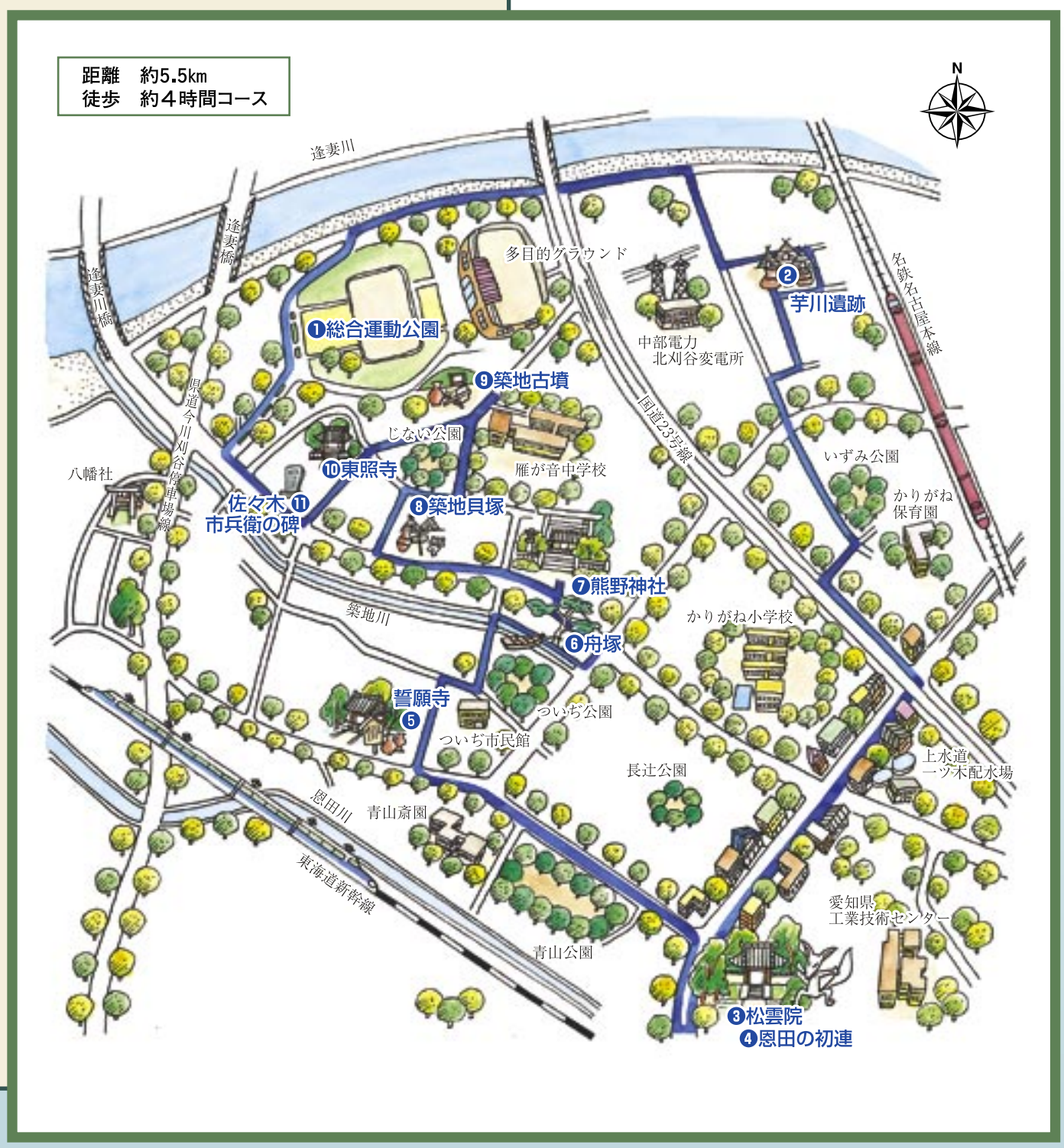
❿東照寺

応永15年（1408）10月、日叟透玄が庵室を建立し薬師堂とした。天正5年（1577）8月楞厳寺7世古堂周鑑が再興し、この時本尊薬師如来の経文によって寺号を東照寺と改称した。

⓫佐々木市兵衛の碑

佐々木市兵衛は築地村の生まれで、誓願寺住職小林大道に学び、刈谷藩士山田鈴之進について武道を修めた。尊王攘夷の志士で、慶応3年（1867）鷲尾隆聚の挙兵に応じて上京した。維新後、刈谷藩主土井利教は市兵衛の忠節を賞し、臣下にしようとしたが、既に陛下の臣であるとして辞退した。藩主はその志に感服し、母に二人扶持を与え、市兵衛には士分の待遇を与えた。

明治4年（1871）の「伊勢神宮動座騒動」に係わり、国事犯として裁かれ、明治5年40歳で獄中死した。



刈谷市

歴史の小径

〔築地・一ツ木・恩田〕

文化財は私たち祖先のすぐれた文化活動の所産であり、そのひとつひとつがその土地の歴史と風土の中で育てられたものです。

先人の手によって、長い年月のあいだ大切に守られてきた偉大な文化的遺産を正しく理解し、次の世代のためにその保存と活用に心掛けましょう。

刈谷市教育委員会

生涯学習部文化振興課

〒448-8501　刈谷市東陽町1-1

TEL　0566-62-1037